

ときがわ町第8期介護保険事業計画等策定委員会（第3回）議事録						
開催日時	令和3年1月22日（金） 13:30～14:20					
場 所	文化センター 2階 会議室兼小ホール					
会 長	野口 本和			副会長	杉田 ふじ子	
委員出席状況	区分	氏 名	出欠	区分	氏 名	出欠
	1	馬場 眞美子	欠	3	柴崎 敏子	出
	2	兒嶋 弘泰	欠	4	村田 朝子	出
	2	野口 本和	出	○4	池田 益美	出
	2	坂下 浩	出	○5	藤村 孝志	出
	3	杉田 ふじ子	出	5	西澤 明彦	出
	3	村田 憲一郎	出			
	出席委員：9人 欠席委員：2人					
事務局	福祉課長：山崎俊樹、高齢者福祉担当：村田宏美 地域包括支援センター：吉田貴光					
コンサル	Next-i株式会社：吉元淳					

※区分・・・1：知識経験者、2：保健・医療・福祉従事者、3：被保険者代表者
4：費用負担関係者、5：指定事業所代表者

※区分欄の○印・・・議事録署名委員

1. 開会

進行 山崎福祉課長

2. 会長あいさつ

野口会長

3. 議題

規則第5条第1項に基づき、会長が議長となり、規則第6条第2項に基づき、議事録署名委員として、池田委員、藤村委員の2名を指名する

(1) 高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画（案）について

前回の策定委員会からの修正点及び前回の策定委員会での意見を反映させたことについて、次のとおり説明する。

【事務局】 「第5章 介護サービスの充実」個々のサービスごとの見込値および「第6章 介護保険事業費用の見込み」サービス別給付費の推計については、推計を行う「見える化」システムに反映されている最新の実績まで勘案し、推計値を出した。

前回の策定委員会において、仕事をするのが介護予防につながる、重要なことだのご意見をいただいたことから、55ページ「3 生きがい・社会参加の推進」で就業機会の拡大についての取り組みも明記した。

続いて、資料83ページ以降について事務局から説明する。

【議長】 説明について、質疑等を問う。

【委員】 追加で配られた資料と計画書（案）のページが合っていないが。

【事務局】 追加資料は差し替えとなるが、ページがずれていた。ページ番号を読み替えていただきたい。

【委員】 保険料が下がるとのことだが、希望的観測で下げているのではないか。根拠は。

【事務局】 過去の給付費の実績から今後の見込みをたて、算定した結果。

【事務局】 下がる結論に至った要素がいくつかあり、ひとつは介護給付費準備基金の取り崩しが前回よりも多くなっている。もうひとつは、65歳以上の高齢者の人数が増加することによる保険料の収入増が見込まれる。給付費はこのところ伸びがそれほど大きくない。また、高齢者数は増えているが認定者数は横ばいである。これらを総合しての結果である。

【事務局】 基金からの繰入額が前回の約2倍。もし繰り入れなかった場合の保険料算定額は6,144円であり、保険料引き下げの大きな要素となっている。

【委員】 民生委員の主な活動の中に「敬老会への協力」とあるが、現在は行っていないので消してほしい。

【事務局】 削除する。

【委員】 介護療養型医療施設が令和5年度末で廃止するとのことだが、利用者はど

うなるのか。

【事務局】 介護療養型医療施設から介護医療院へ移行している。

【委員】 介護医療院へ移行するというが、見込値はゼロとなっている。令和5年度は療養型の見込みもゼロである。

【事務局】 介護医療院は新たに創設された施設だが、現状として数がまだ少ない。転換を進めている最中。見込値はいままでの実績から推計するのでゼロであるが、今後は増えていくことも考えられる。療養型には現在1名の利用を推計しており、令和5年度には特養への転換を見込んだ。

【委員】 介護人材確保が大きな課題。コロナ禍の現状でも、募集を出しても入ってこない人材確保についてどう考えるか。地域密着型サービスで人員基準の緩和を考えているか。

【事務局】 コロナ禍で職を失った方が多く、福祉基金等の貸付を受けている方も非常に多い。仕事が見つければいいが、生活保護になる場合も予想される。働きたくても職場がない方が介護職に目を向けてもらえれば。

【委員】 職を失った人が応募してくると思ったが、来ない。壁のひとつが資格。ある程度の年配者で全くやったことのない分野に入ってくるのは非常に大変。現在の介護職の人を救うためにも、地域密着型の緩和などを考えてほしい。

(2) 今後の予定について

資料により、事務局から説明を行う。

【議長】 説明について、質疑等を問う。
質疑なし。

(3) その他

【委員】 AI (人工知能) を使って、閉じこもりがちな高齢者にもわかるような形で、連絡や横のつながりなどに利用できないか。

【事務局】 町でもタブレットを利用した会議などを始めたが、一部に限られる。高齢者世帯に配布するとなると大規模な取り組みになってくると思うが、現状としてはまだ検討はされていない。今後、防災面などでも状況は変わってくると思うが、近い時点で機器の導入は見込まれていない。

【委員】 パブリックコメントの実施について、町広報誌やHPだけでなく、わかりやすい情報を流せないか。

【事務局】 高齢者に対しての周知はHPに載せただけでは十分ではないのは承知しているが、細かい情報を一軒ずつお知らせするのも至難なことであり、難しい課題と考える。

8. 閉会

杉田副会長

上記会議の顛末を記録し、その相違なきを証するため、ここに署名する。

令和 3 年 2 月 12 日

議 長 野 口 本 和



署名委員 池 田 益 美



署名委員 藤 村 孝 志

